

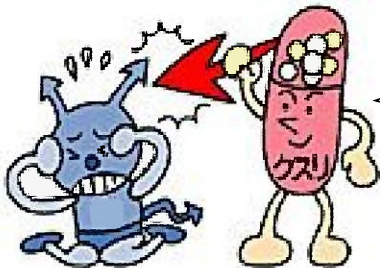
がん性疼痛看護とは??

～分野説明～

がん性疼痛（トータルペイン）のある患者さん・家族への疼痛緩和のケア・指導を行います。患者さん・ご家族のQOLを維持、向上出来ることを目指しています。

～コンサルテーション例～

疼痛	<ul style="list-style-type: none">・患者さんの痛みのアセスメント。・薬の拒否のある患者さんへのケアについて。・オピオイド等の副作用・痛みをとる薬剤（オピオイドや鎮痛補助薬）と、効果・評価について・オピオイドローテーションについて・鎮痛薬使用中の在宅生活への支援（ポートや皮下注射に、PCA使用について） など
その他 苦痛な症状	<ul style="list-style-type: none">・苦痛な症状（呼吸困難、腹部膨満感、吐気、嘔吐など）のアセスメントとケア方法・薬剤の副作用のコントロール（吐気、眠気、便秘など）・家族へのケア・精神的、スピリチュアルな痛みのケア など
その他	<ul style="list-style-type: none">・患者・家族の意思決定について・鎮静についてなど倫理的な問題・緩和ケアチームなどのチーム医療について など



このほかニーズに合わせた研修会なども可能です。
現場でお困りのことがありましたら、お気軽にご相談ください。

がん性疼痛看護認定看護師 役割と活動内容

● 役割

- 実践** ・がん性疼痛を有する患者、家族に対し適切なアセスメントを行い、的確な疼痛緩和と、高度な知識、技術をもって QOL 維持のための援助を行う。
- 指導** ・がん性疼痛を有する患者、家族の看護について他の看護職者に対して実践的モデルを示し、実践に関する指導を行う。
- 相談** ・あらゆる職種が抱える緩和ケアを必要とする患者・家族の問題に対し、相談する環境を整え、コンサルテーションを行う。

● 活動内容

1) 実践

- ・自部署および緩和ケアチームで全人的ペインマネジメントに基づいた疼痛、症状緩和を、看護計画として立案し、実践していく。
- ・薬物療法、放射線治療など、症状緩和を目的とした治療の効果、副作用を評価し、苦痛を最小限に出来る看護ケアを行う
- ・緩和ケアリンクナースを組織し運営する。あるいは、リンクナースとして自部署の緩和ケアを必要とする患者、家族のケアを行う。
- ・自らが役割モデルとなり、がん性疼痛・緩和ケア領域の実践を行う。
- ・がん性疼痛・緩和ケア領域において、よりよい医療が提供できるよう、関連する他職種との調整を行い、看護実践者としてリーダーシップが発揮できる。
- ・緩和ケアを受ける患者、家族に適切な倫理的判断を行う。
- ・家族が順調に悲嘆のプロセスを進む事が出来るよう、適切なケアを行う。

2) 指導

- ・疼痛緩和、緩和ケアについて最新の情報を収集、指導を行う。
- ・緩和ケアリンクナースにおいて、統一レベルの知識を持ち、看護が提供出来るための指導を行う。
- ・院内のがん看護に携わる看護師が、必要最低限一定のレベルでの看護提供が行えるよう勉強会を行う。
- ・自部署及び緩和ケアチームにおいての全人的ペインマネジメント、疼痛緩和の方法についての実践指導を行い、対象へのアセスメント能力や方法の向上を図る。
- ・医療用麻薬が安全に管理でき、効果的な投与が出来るよう指導する。
- ・家族看護の必要性、方法を指導し、悲嘆を順調に行えるよう指導する。
- ・緩和ケアリンクナースにおいて教育プランを作成し、実施していく。

3) 相談

- ・相談者が自ら解決の方向を見出す事が出来るよう、相談・支援を行う。
- ・緩和ケアに関する看護介入等の相談を行う
- ・あらゆる職種が抱える緩和ケアを必要とする患者、家族の問題に対し、コンサルテーション機能を遂行する。